

【認知症対応型共同生活介護 用】

1. 第三者評価結果概要表

作成日：平成21年10月11日

【評価実施概要】

事業所番号	2875000917		
法人名	株式会社グロリアコーポレーション		
事業所名	グループホームめぐみの丘Ⅲ		
所在地	(〒 651-1132) 兵庫県神戸市北区南五葉6丁目9-20		
	電話	078-593-5067	
評価機関名	特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所		
所在地	兵庫県神戸市長田区萩乃町2丁目2番14-703号		
訪問調査日	平成21年9月4日	評価確定日	平成21年10月11日

【情報提供票より】〔平成21年8月25日 事業所記入の同書面より要点を転記〕

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年3月15日		
ユニット数	1ユニット (利用定員…計9人)		
職員数	11人	(常勤2人)	(非常勤9人) / 常勤換算6.25人

(2) 建物概要

建物構造	木造鉄骨造り		
	地上2階建て建物の 1階～2階部分		

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,688円	その他の経費(月額)	20,300円	
敷金の有・無	無し			
保証金の有・無 (入居一時金含む)	無し	(保証金有りの場合) 保証金償却の有・無		
食材料費	朝食	200円	昼食	300円
	夕食	400円	おやつ	100円
	または、1日あたり		円	

(4) 利用者の概要 (平成21年8月25日 現在)

利用者人数	計9名 … (男性1名) (女性8名)		
要介護1	3名	要介護2	2名
要介護3	1名	要介護4	1名
要介護5	2名	要支援2	0名
年齢	平均82.6歳 … (最低62歳) (最高96歳)		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	頭修会すずらん病院 タカダ医院 いまうえ歯科医院		
---------	--------------------------	--	--

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

大型の一般民家を改修し開設したホームは、神戸電鉄鈴蘭台駅の北西15分程の閑静な住宅地に在る。居間からウッドデッキや芝生庭に出ることが出来るので、利用者は、いつでも自由に入出入りをして外気に触れている。広い庭は、花や野菜づくりをはじめ、ティータイムやバーベキューパーティー等に活用されている。利用者は日中、食堂やリビングに集まり、食事準備や後片付けの協働作業のほか、談笑・ゲーム・カラオケ等を楽しみ和やかに時間をすごしている。利用者も少人数であり、ホームも戸建住宅の設えでもあることから、家庭的な雰囲気が醸し出されている。自己評価、第三者評価、家族意見は、サービス向上のための重要なアセスメントとして活用されている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	①ホーム独自理念を作成した。②ふれあい喫茶に参加して、地域への情報発信を始めた。③運営推進会議に行政職員や知見者が参加するようになった。④研修報告書等のファイルを整備した⑤入居決定までのプロセスを見直した⑥各種書類に日時氏名を記入するようになった。⑦避難訓練を年2回開催し近隣住民も参加するようになった。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
	職員ミーティングを開催し、計画作成担当者と管理者がその内容をまとめた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回の頻度で開催されており、利用者、利用者家族、民生委員、地域包括支援センター職員、知見者、ホーム長、ホーム職員が出席している。地域包括支援センター職員は2名が出席している。会議では、ホームの現状報告の他、今後の行事や研修の案内、ホームに対する意見の聴取等について話し合わせ、議事録も作成されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	家族からは、来訪時や電話、Eメールなどによって意見や要望を聴き取り、それらの意見を日々のケアに反映させるよう、毎月開かれる会議で検討している。利用者の日常の様子や健康状態などは、家族等の来訪時に報告し、また、行事写真を添えて「めぐみの丘便り」も送付している。海外居住家族には国際郵便やEメールで連絡を交わしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
	地域の方々とも利用者や職員は顔見知りになってきている。最近、庭を整備したことによって、外からの見通しも良くなりより開放的になった。運営推進会議には、民生委員が出席し、ホームの避難訓練にも近隣の方が複数名参加して下さっている。地域のふれあい喫茶にも毎月参加している。徐々に交流の機会を増やしていくように努めている。

2. 第三者評価結果票

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしてのホームの独自理念を新しく設定した。地域とのつながり、地域資源との協働等、地域住民として、その人らしい生活をおくれるよう支援することを掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人基本理念およびホーム独自理念をホーム内によく見えるところに掲げ、全体会議などを通して理念の浸透を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の方々とは、日常的な挨拶や自治会回覧板の受け渡しなどで顔見知りの関係になってきた。ふれあい喫茶への参加、近隣の方々のホーム避難訓練への参加やボランティア訪問等が行なわれている。また、散歩は同じ時間に同じコースを通る工夫もみられる。庭を整備したことによって、外部からの見通しもよくなり明るく開放的になった。	○	地域の方々への知識還元(介護技術・介護保険に関してのご質問等)活動にも、今後、取り組んでいかれることを検討されてはどうか。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	第三者評価による改善項目については、職員ミーティングなどで話し合いを行ない、出来るところから着実に改善に取り組んでいる。なかでもホームの開放は積極的である。今後は目標達成シートを作成し、更なる質の向上に向けて取り組んでいく予定。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には民生委員、地域包括支援センター職員、他ホームの職員に参加してもらっている。地域に開かれたホーム運営を行なうために、出席者にご協力をして頂いている。		
6	9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	3ヶ月に1回程度開催される区主催の施設連絡会に出席し、各種の情報交換を行なっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の日常の様子や健康状態などは、日々担当者が個別に記録しており、家族等の来訪時に伝えることが多い。家族には「めぐみの丘便り」として個別に行事写真に手紙を添えて、報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からは、来訪時や電話、Eメール、運営推進会議出席時などによって意見や要望を聴き取り、それらの意見を日々のケアに反映させている。海外に住む家族とも手紙や電話連絡をしている。家族との面談記録帳は無い。	○	家族等との面談(相談や意見)は、記録しておくことが望ましい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	近隣に住まわれている方を中心にパート職員として採用しており、職員間の意見交換を密に行なっている。この1年間での離職者は無く、職員は定着している。離職者が出た場合は、利用者への影響を極力小さくするため、シフトの組み替えなどをもって対応している。		


外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各法令により義務化された研修は、事業者(会社)負担で参加しているが、その他の研修については個人での参加になっている。研修参加の際は、勤務シフトの調整等で便宜をはかっている。研修受講者はホームでの伝達研修が行なえるように努めている。研修ファイルや研修報告書は整備されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3ヶ月に1回程度開催される区主催の施設連絡会に出席し、同業者との交流を図り、情報交換を行なっている。運営推進会議に他のグループホーム職員に参加してもらったり、また、他ホームに見学に行くなど相互交流を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望があった場合、本人及び家族との面談や見学の機会を持ち、これまでの経緯や要望を聴いた上で入居決定に至っている。入居後は、1ヶ月程度かけて本人像を把握しながら家族等と相談しながら介護計画を立案している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は日常の家事を中心に、入居者の能力・得意とすることを引き出しながら、利用者とともに日々を過ごしている。お互いを理解し支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前後のアセスメントをはじめ、日々の生活の中での言葉や態度から本人の意向や希望を汲み取り、カンファレンスで検討している。		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアカンファレンスを毎月の全体会議で行ない、本人の希望を盛り込んだ、短期目標と長期目標を作成している。介護計画が変更された場合は、家族来訪時に計画作成担当者が説明を行なっている。それぞれの利用者に対して個別対応マニュアルを作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月全体会議でモニタリングを行ない、6ヶ月に1度、介護計画を見直している。状態変化がある場合は、会議や申し送りで検討のうえ、随時、ミニミーティングを開き、介護計画を見直している。主治医との連携において十分でない面が見られる。	○	主治医や家族との連絡体制を密にし、詳細な情報を盛り込んだ介護計画の見直しが求められる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の状況にあわせて緊急時には協力医療機関の往診を受けることができる支援体制を築いている。また、整形外科医の訪問診療が定期的であり、訪問歯科を利用することもできる。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医によって毎月定期的な訪問がなされている。利用者や家族が協力医療機関以外を希望した場合にも希望を取り入れ、家族等の協力のもと、受診支援を行なっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者が重度化した時の対応については、ホーム運営者及び関係者のほか、家族やかかりつけ医などと話し合いを持つ体制にある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	各職員は、状況に応じて声のかけ方や言葉使いに気を配りながら、利用者の誇りを傷つけないように対応している。特にトイレ誘導や入浴時の支援は人目に触れないように支援している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各職員は、一人ひとりの行動パターンを把握しており、会話や行動から本人の気持ちや思いを推察し利用者各々の希望をできるだけ取り入れている。喫茶店では利用者は好みの物を注文したり、希望に沿った外食として回転寿司に行ったりもしている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を聴き取りながら献立を決めている。食材切りや食事準備、調理、盛り付け、後片付けなどを職員と協働している。職員も一緒に同じテーブルで食事をしており、会話ははずんでいる。庭の芝生でバーベキューをしたり、定期的に外食にも出かけている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴日や入浴時間は大まかに決められているが、シャワー浴は、希望によりいつでもすることができる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の力量に合わせて日常生活上の役割(食器洗い、掃除、洗濯物たたみ、庭の水撒き等)を決めている。午後にレクリエーション(カラオケや体操など)を行なっている。ふれあい喫茶には毎月出かけ、誕生日会も組み入れながら季節行事や遠足も行なっている。昨年是一部の利用者ではあるが、九十九里浜への旅行にも出かけた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣公園への散歩や買物は日常として行ない、散歩については近隣住民にホームであることを理解してもらうことも兼ねて、同じ時間に同じコースを通る工夫みられる。買い物に行く場合は、職員対利用者比率が1対1または1対2の支援を行なっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は、利用者の居場所を常に把握し安全に配慮している。玄関やリビング窓が開放されており、ウッドデッキを歩いていつでも庭に出ることができ、研修で鍵をかけないケアを学び、門扉も開放した。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時対応方法は「介護サービス管理手順書」に明記され、それを家族に交付して情報を共有している。避難訓練は消防署に協力依頼し、近隣の方々には案内をポスティングしたことによって、3名の参加があった。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	「食事摂取量」や「水分摂取量」については、バイタル記録などとともに1つの表にまとめて細かく記録され、それらをもとに利用者それぞれに適切な支援がなされている。管理栄養士が毎月ホームを訪問し、メニューをチェックした上でアドバイスをこなっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物は戸建住宅を改装したもので庭も広く心地良い。居間に併設してウッドデッキを設置し、庭への出入りもしやすく、大きな窓からの日差しも気持ちよい。建物内は段差を無くし、安全への配慮がみられるが、1・2階の昇り降りが階段だけなのは今後の懸案事項。職員が庭の剪定作業を行ない、見通しがよくなり、なおいっそう開放感が出た。	○	利用者のADLの低下は否めず、1・2階の昇り降りについての検討を始めて欲しい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には使い慣れた家具や調度品を持ち込み、利用者自身の作品や写真なども飾り、入居者それぞれの個性を活かした居室作りがなされている。		

※  は、重点項目。